

テレビCM部門

グランプリ 受賞作品「不満のバトン」

《企画意図》「客」と「店員」という肩書きが変わるだけで態度が一変するのはなぜか。かつてバイト中に無理な要求を受けた経験から、この疑問を抱いた。誰もが「客」と「店員」の両立場を経験するはずだが、思いやりを失う人がいる。本作では立場の変化をリレー形式で表現し、カスタマーハラスメントの現状に問い合わせを投げかける。（長岡造形大学 小山詩乃）

電話で謝る男性。



男性1

「大変申し訳ございませんでした。」

お店のお客さんになると
買い物かごを叩きつけて
店員に向かって文句を言う。



男性1

「おい！値引きしろよ！
店長呼んでこい！」

お客さんになると電話で
カスタマーセンターに
クレームを入れる。



男性2

「すいません！
少々お待ちください！」

電話口で謝る
カスタマーセンターの女性。



女性

「カスタマーセンターです。」

自宅で
宅配の荷物を待つ女性に変わると
配達員に「遅い」とクレーム。



男性2

「おい！今すぐ解決しろ！
できません、とか言うなよ！」

字幕スーパー
「不満のバトン、渡さないで」



女性

「申し訳ありません！
すぐ確認します。」

♪ピンポーン

女性

「ちょっと遅いんだけど！」

配達員

「すみません」

Narration

「不満のバトン、渡さないで」

ACジャパンのロゴが現れる。



♪

ACジャパン

《寸評》カスタマーハラスメントが連鎖しているようなことが実際あるのでは、とハッとした。演劇的な演出、劇を見ていく上で判りやすかった。自分もそうなっていないかと気づくきっかけになっている。若者らしいクリエイティブ。それぞれの設定が面白い。よく考えられている。